



東日本大震災から5年目の被災地を訪問して

期間：2016年3月10～11日

訪問地：荒浜 - 閑上 - 荒井 - 野蒜

写真は荒浜に新設された防潮堤と津波で破壊された松林

東日本大震災から5年目の被災地を訪問して

[2016年3月10日(木)]

久しぶりに仙台の宮城教育大学を訪問し、午後からスタッフの先生方や学生君たちと一緒に津波被災地視察研修に同行させて頂いた。この視察研修には愛知教育大学の学生君たちも参加されている由、30人乗りのバスはほぼ満席となった。訪問先は若林区霞目の浪分神社、荒浜地区と、名取市の閑上地区であった。荒浜地区はほとんど変化がなく、震災遺構として保存が決まった荒浜小学校では校舎の補強工事が行われていた。閑上地区は嵩上げ工事の真っ最中で、土砂を積んだダンプカーがひっきりなしに走り回っていて、閑上中学校には近づくことができなかった。津波で亡くなった閑上中学の生徒14人の慰霊碑や、中学校の近くにあった仮設小屋“閑上の記憶”は日和山の近くに移設されており、新たに名取市によって建立された慰霊碑には犠牲者990人の氏名が刻まれていた。帰路、閑上五叉路で皆さんと別れ、閑上小学校へと向かったものの、ここでも嵩上げ工事のために校舎に近づくことはできなかった。名取市のマイクロバス“なとりん号”で名取駅を経て仙台に戻った。

[2016年3月11日(金)]

午前中は地下鉄東西線の東端、荒井駅の周辺を歩いてみた。駅舎の一角に新設された“せんだい3.11メモリアル交流館”を訪問するのが目的であったが、付近に続々と建設が進められている瀟洒な戸建て住宅やマンション、震災復興住宅としての市営住宅、荒浜小学校がこの4月から合流することになる七郷小学校や七郷中学校、七郷小学校の前身である荒井小学校発祥の地である七郷神社、荒井小学校用地応急仮設住宅などを次々に訪問し、近隣の方々とおしゃべりしているうちに、予定していた女川・石巻を訪問する時間がなくなってしまった。最後に訪問した仮設住宅は以前にも訪問したことがあったが、集会所におられた若林区まちづくり推進課職員の話によれば、一時は190世帯も入居しておられたのが、現在は19世帯を残すのみで、順次、復興住宅などへの移転が進められていること、残っている方のほとんどが独居であることから健康上の心配があってパトロールが欠かせないこと、5月9日をもって仮設住宅を閉鎖する予定になっているが、全員が出て行かれるまでは閉鎖できないこと等々のお話を伺うことができた。最後に荒井駅に戻り、メモリアル交流館に設けられた祭壇にお参りしてから仙台駅に向かった。

午後は女川・石巻を諦め、東松島市の野蒜地区を訪問することにした。これまでは代行バスを利用していたので、仙石線ごと移設された新しい野蒜駅で下車するのは初体験であった。駅前は大規模な造成工事中で、旧野蒜駅までは徒歩25分とのこと、まずは途中の野蒜小学校跡を目指した。野蒜小学校周辺には特に大きな変化はなかったが、2月末に建立されたばかりの閉校記念碑には心打たれるものがあった。仙石線の電車が津波で被災した場所のすぐ近くでは、作業場でタバコを吹かしておられた同年配の男性と話し込み、石巻で地震に遭ってから急遽、軽トラックで帰宅し、その直後に自宅で津波に襲われたこと、家人はすでに裏山に避難しており全員無事であったこと、津波は1階の軒下まで来たこと、津波に流された電車の正確な位置、はては、高校時代にチリ津波で被災した女川に今で云うボランティア活動に行ったことなど、話は際限なく続いた。旧野蒜駅はプラットホームの保存と共に、コンビニが併設された“野蒜交流センター”として機能しており、テーブルと椅子が置かれた休憩スペースの周囲には被災写真等が展示されていて、一角の観光案内所では宮戸島への奥松島遊覧や民宿の案内をしていた。この野蒜地区では、津波災害を何とか免れた住宅はそのまま居住することが可能であり、嵩上げをすれば新築も可能とのことであった。仙台駅では帰りの新幹線まで時間があったので、改札口に近い“気仙沼の寿司屋”でにぎりとお刺身の、それに男山の冷酒：蒼天伝を堪能させていただいた。



校舎2階東から津波の到来方向を見る

仙台市若林区の荒浜小学校

正面向かって
右側から
屋上へ上がれ

緊急一時避難場所

仙台市立荒浜小学校

注意事項

- 津波により緊急一時的に避難する際は、この建物の屋上に避難してください。
- 一部ガラスが割れているなど危険な箇所があります。また、電気が止まっているので夜間に避難する際は、十分注意してください。

仙台市

連絡先：仙台市 減災推進課
TEL (022) 214-3049



津波襲来の痕跡を残す1階の教室



避難 Evacuation

「逃げる」ことを重視し、避難の丘や避難施設、避難道路などを整備

Placing importance on fleeing, and developing evacuation hills, facilities and roads.

多重防衛 Multi-layered Defences

防潮堤再整備、防災林再生、県道かさ上げなどによる「多重防衛による減災」

'Disaster Risk Reduction with Multi-layered Defences' by reconstructing coastal levees, reviving disaster-prevention forests, and raising prefectural roads.

移転 Relocation

安全な内陸への集団移転による「総合的な防災対策」

'Comprehensive Disaster-prevention Countermeasures' by relocating inland to a safe place as a group.

断面図 Cross-section View



荒浜小学校の校門前に掲示されていた仙台市の津波対策の概念図



名取市関上の日和山にて



このお社は平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災の犠牲者への鎮魂の思いから同じく関上四丁目の被災者である宮大工(神社の総代が所有して、流出した道具及び木材をがれきの中から回収しこれらを御自身で整備しながら丹精込めて製作奉納されたもので、広く皆様の御支援のもとここに建立いたしました
内部には犠牲者のお名前を記し祀っております。
尚お社の正面の二本の柱の間隔は二尺五寸七分でこれはこのよきな大いなる災害が二度と来ない様にとの願いを込めたものです。

平成二十五年五月 関上湊神社

津波被害の大きかった名取市関上地区と日和山

上の写真のお社の柱間隔が二尺五寸七分である理由？



日和山近くに新たに建立された名取市の津波慰霊碑



関上小学校と津波避難場所を示す案内板

名取市関上の日和山に置かれていた 昭和三陸津波の『地震津波記念碑』



震嘯記念

地震があつたら津浪の用心

昭和八年三月三日午前二時三十分突如強震アリ、鎮静後四十分ニシテ異常ノ音響ト共ニ怒濤澎湃來リ、水嵩十尺名取川ヲ遡上シテ西八猿猴園ニ到リ南八貞山堀廣浦江一帯ニ氾濫セリ浸水家屋二十餘戸名取川町裏沿岸ニ在リシ三十噸級ノ發動機漁船數艘八柳原園畑地ニ押上ケラレ、小艇ノ破碎セラレタルモノ尠カラザリシモ幸人畜ニハ死傷ナカリキ縣内桃生牡鹿本吉ノ各郡及ビ岩手青森兩縣地方ノ被害甚大ナリシニ比シ輕少ナリシハ震源地ノ遠ク金華山ノ東北東約百三十哩ノ沖合ニ在リテ濤勢ノ牡鹿半島ニ遮断セラレ其ノ餘波ノ襲來ニ過ギザリシト河口ノ洲丘及ビ築堤ノ之レヲ阻止シタルトニ因ルナリ震災ノ報一度天聽ニ達スルヤ畏クモ、天皇皇后兩陛下ヨリ御救恤トシテ御内帑金ヲ御下賜セラル、聖恩ノ宏大ナルコト洵ニ恐懼感激ニ禁ヘザルトコロナリ惟フニ天災地變ハ人力ノ豫知シ難キモノナルヲ以テ緊急護岸ノ萬策ヲ講ズベキハ勿論平素用心ヲ怠ラズ豫ニ應ズルノ覺悟ナカルベカラズ茲ニ刻シテ以テ記念トス

昭和八年十一月三日

閑上町長 渡邊卓郎 篆額
 從七位 勲八等 加藤忠藏 撰文
 勲八等 赤松僖一郎 書

宮城縣本吉郡志津川町
 石工 阿部清藏 刻

閑上中学校に置かれていた閑上中学生徒のための慰霊碑と「閑上の記憶」は嵩上げ工事のために日和山の近くに移設されていた



祈りの輪



宮城・名取

閑上の記憶に掲示されていた『3.11 追悼の集い』への参加を呼び掛けるポスター(上)と翌日実際に行われた追悼の集いで飛ばされた『メッセージ風船』(下、朝日新聞3/12より)

津波の犠牲になった14人の閑上中学生徒のための慰霊碑。碑の手前に野球のホームベースが置かれているのは犠牲者の1人が野球部に所属していたため、碑の両脇の机上には犠牲者全員に宛てたメッセージが書き込まれている。

